

Citation: Hilgart JS, Coles B, Iredale R. Cancer genetic risk assessment for individuals at risk of familial breast cancer. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2012, Issue 2. Art. No.: CD003721. DOI: 10.1002/14651858.CD003721.pub3.

CRG名: Cochrane Breast Cancer Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 8 APR 2011

Clib issue No.; N/U: 2012 Issue 2; U

背景: 乳癌の遺伝的要素が認識されたことで、情報再確認、および遺伝子検査に対する需要が高まり、その結果として家族性癌を対象とする遺伝子クリニックが創設されようになった。癌の遺伝子クリニックへ紹介された患者にとっての第一段階がリスク評価である。

目的: 癌の遺伝学的リスク評価業務が家族性乳癌リスク患者に与える影響を評価する。

検索戦略: Cochrane Breast Cancer Groupが管理する specialised registerを2005年2月16日に検索した。MEDLINE、EMBASE、CINAHL、PsycLIT、CENTRAL、DARE、ASSIA、Scienceウェブサイト、SIGLE、およびLILACSも検索した。当初の検索では1985年から2005年2月までの期間を対象とした。関連性のある雑誌のハンドサーチも行った。本レビューのアップデートのため、検索を2011年4月まで繰り返し行った。

選択基準: 家族性乳癌に対する遺伝学的リスク評価業務としての介入について考察している試験の選択を検討した。試験ではリスクの理解、満足度および精神的充足といったアウトカムを評価していた。乳癌以外の癌に関する研究、および参加者が遺伝性乳癌リスクを有していない研究は除外した。本レビューでは遺伝学的リスク評価の提供に焦点を置いたため、一般的な癌の遺伝情報や教育の提供に関する試験も除外した。参加者はあらゆる年齢の男女で、既知のBRCA変異の有無は問わないが、乳癌またはなんらかの重篤疾患の既往歴を有していない者とした。

データ収集と分析: レビューア2名が独自に試験の質を評価し、データを抽出した。必要に応じてその後追加された情報を治験責任医師に要請した。介入とアウトカムの双方の異質性のため、データを記述的に報告した。

主な結果: 本レビューのアップデートでは新たに5件の試験を加えており、それによって含まれた研究の総数は8件となった。含めた試験(論文10件に関連)では参加者1,973例に関するデータが提供されており、認識された遺伝性癌のリスク、および心理的苦痛などのアウトカムに及ぼした、癌の遺伝的リスク評価の影響を評価している。本レビューは癌の遺伝学的リスク評価業務が、苦痛の低減、乳癌のリスク認識の正確性の向上、および乳癌ならびに遺伝子に対する知識の増加に役立つことを示唆している。リスク評価を行う医療従事者がこれらのアウトカムに対して有意な影響を与えることはないと思われる。

レビューアの結論: 本レビューでは、家族性乳癌に対するリスク評価後の患者に良好なアウトカムを見出だした。しかし、癌の遺伝学的リスク評価業務を最善に行う方法について有意な結論を下せるほどの数の論文がない。癌のリスク評価の最良の方法を様々な医療従事者によって多様な方法で、他の部位において評価するようさらなる研究が必要である。

(監訳 曾根 正好)

翻訳公開日: 2012年6月19日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。